



## 7月の主な行事

1日	: 国民安全の日・半夏生	15日	: お盆
7日	: 七夕・小暑・ゆかたの日	21日	: 海の日
10日	: 納豆の日	22日	: 大暑
11日	: 世界人口デー	23日	: ふみ月ふみの日
14日	: 検疫記念日	25日	: かき氷の日



## 今月のかわら版 : 1 「夏の風物詩 朝顔市とほおずき市」

夏の風物詩といえば、朝顔市とほおずき市。  
東京・入谷の朝顔市と浅草のほおずき市には、毎年多くの観光客が多数押し寄せ、大変な賑わいになります。

入谷「朝顔市」  
毎年7月6日から8日まで、東京入谷の「恐れ入りやの鬼子母神」で知られる真願寺で開催されます。（本年のみ北海道で開催されるサミットの関係で、7月18日～7月20日開催）

朝顔は、奈良時代初頭に薬用として、遣唐使により中国からもたらされました。

薬であったため、当初は淡青色のみでしたが、江戸時代に入り観賞用として普及し、花色も赤・白などが出現しました。

入谷が朝顔で有名になったのは、明治時代になってからのことで、十数件の植木屋が、軒を連ねて朝顔作りを競って始め、それを大勢の見物客が訪れたのが始まりだそうです。

現在は、ほとんどが千葉や埼玉の植木屋さんが集まってきているそうです。

朝顔が咲き誇る朝一番に行き、ゆっくり見るのがおすすめです。

入谷朝顔市に引き続き夏のお祭り「ほおずき市」  
こちらは、7月9日～7月10日に浅草寺境内で開催されます。  
ほおずき市の起源は、江戸時代の明和年間に起こったと言われてしています。

この日にお詣りすると、四万六千日をお参りしたのと同様の功德が得られるとの言い伝えがあります

最初は、芝の愛宕神社の四万六千日の縁日としてたっていました、四万六千日は、観音様の功德日であったところから、浅草にもほおずきの市が立つようになり、いつしか愛宕神社をしのぐようになったそうです。

浅草寺境内には約250軒のほおずき屋の売店が連なり、よしず張りに裸電球がぶらさがり、ガラス風鈴つきの「千成ほおずき」が売られます。  
このほおずきにつける風鈴の音色には、夏に流行する厄病を遠ざける由来があり、厄除けとなる赤色の風鈴が主でしたが、現在はさまざまな色が見受けられるようになりました。

朝顔市・ほおずき市は、他のいろいろな地域でも催されています。  
今年はぜひ出かけてみてはいかがでしょうか。



## 今月のかわら版 : 2 「半夏正」

7月1日は、半夏生（はんげしょう）です。

半夏生とは、夏至を3つに分けた最後の3分の1の期間を指します。  
つまり、夏至から数えて11日目にあたる日で、この時期に「カラスビシャク（漢名：半夏）」という野草が生えることから名がつけられました。

この日までに農作業を終え、この日の天候で豊作になるか凶作になるかを占ったり、麦の収穫祭を行うなど農家にとって大切な節目の日です。



関西では、「田に植えた稲の根が、たこのように大地にしっかりと吸い付き、根付くように」との願いから、この日にたこを食べる習慣があるそうです。

たこは、甘露煮、酢だこ、天ぷらなどいろいろな調理方法がありますが、糖質、脂質が少なく低カロリーで、血圧やコレステロールを下げる働きのあるタウリンも豊富に含まれています食物です。

暑い夏を健康的に乗り切ることができるように。との願いを込めて食されてきたともいわれています。